

《教育長メッセージ 第81号》



『第3期えびなっ子しあわせプラン①』

第72号で「多様性」について、私のこれからのお手伝いを述べさせていただきました。

これから、3回にわたって、令和3年度から海老名市として取り組む具体的な学校教育への計画について、説明したいと思いますので、よろしくお願いします。

私は、「第3期えびなっ子しあわせプラン」の取り組むべき重点として、3つの柱を立てました。

1 「授業改善の実践」

2 「教育支援体制の充実」

3 「特色ある学校づくりの推進」

まず、えびなっ子しあわせプランの基本的な考え方として、過去7年間、第1期、第2期とも、「子どもたちが今と将来にわたって生きる（自己実現を果たし、社会の一員として役割を果たす）ために必要な力を小中学校9年間で確実に身につける」そのために「授業・教育課程・学校のあり方を研究・実践する」ということで取り組んできました。

第3期については、それを継続するとともに、「多様性」をキーワードに、海老名市の子どもたちのひとりひとりの「学びを保障する」という観点から、「多様な学びの場と指導・支援方法の実践」、そのための「多様な支援体制と学校体制のあり方の確立」について、重点的に取り組むという考え方で計画を策定してきたところです。

それでは、1 「授業改善の実践」について、説明します。

「授業改善」は、子どもたちひとりひとりの学びを保障するために、教職員が職にある限り継続的に取り組むべき命題です。

教職員は、常に、子どもたちのために、自分自身のために、よりよい授業を求めるべきです。それが一番の職務であるということです。

今年度、小学校では新しい学習指導要領が全面実施となり、令和3年度

に、中学校において全面実施となります。

私としては、新しい学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」を海老名市教職員全員で追求したいと考えるところです。

また、その中で、今日的な課題である「プログラミング教育」「外国語教育」「キャリア教育」「GIGAスクール構想に係る学校ICTの活用」などについて、実践を進めたいと計画するところです。

取組の具体については、次のとおりです。

◇授業改善の継続

- ・「主体的・対話的で深い学び」の追求
- ・多様な学びの場と指導支援方法の実践
- ・國學院大學田村教授のよりよい授業づくり特別版の継続
- ・よりよい授業づくり学校訪問の継続

◇今日的な教育課題への取組

- ・「プログラミング教育」「外国語教育」「キャリア教育」の実践
- ・GIGAスクール構想に係る「学校ICTの活用」の推進

◇実践継続のための学校、教職員へのサポート

- ・実践のための予算確保と環境整備
- ・校務支援システムを活用したサポートの充実
- ・校内研究への支援
- ・研修会、担当者会の精選

私は、すべての子どもが遊びと同様に学びを楽しむと考えています。

「わかるようになる。」「できるようになる。」ことを拒む子どもは誰ひとりいません。

ただ、人と比べたり、できないことを責められたりしたら、また、それを繰り返されたら、イヤになるでしょう。

そのため、教職員には、その子どもの多様な特性に応じて、学習を展開することが求められます。

そして、そのような授業を追求することは、教職員のやりがいもあります。

私は、海老名市の教職員全員で、授業の改善に取り組みたいのです。

次回は、継続して、『第3期えびなっ子しあわせプランについて②』として、2つめの柱「教育支援体の充実」について、説明してみたいと思います。